

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
訪問調査日	平成19年8月3日
評価確定日	平成19年9月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
所在地	薩摩川内市高江町1655番地 (電話) 0996-23-1201
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 8月 3日

## 【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 3日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.1人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり			円

## (4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3歳	最低	77歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	若松記念病院 可愛クリニック 若松歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々を望むのどかな田園地帯に、デイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、介護保険対象外宿泊施設と併設してホームは建てられ、入居者は一日をゆっくりと過ごすことができる。地域の行事に参加し、その場でグループホームや認知症について事あるごとに説明し、地域との交流、関係作りも積極的に行われている。その結果、近隣の住民や消防署、警察等と協力して「地元一般協力者自衛消防組織」を編成し災害等に備えるなど、入居者は住み慣れた地域の中で、地域の人々に支えられながら安心して生活が送れるように支援されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 事故の報告書と活用 ↓ 事故の事実確認を行った後、再発防止のための対策を話し合い、改善策を記録に残し職員全員が再発防止に関する意思統一を図っている。 その他の項目に関しても全員で話し合い、改善に向けた取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を振り返りの機会としてとらえ、職員全員で取り組んでいる。自己評価及び外部評価の結果については全員で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議においてホームの説明や入居者の状況に加え、活動状況、職員研修の実施状況の報告、非常災害時の協力依頼が行われ、参加者からも活発な意見が出されている。また、外部評価における改善事項の取り組み状況のチェックが、参加メンバーの包括支援センター職員によって行われるなど効果的に運営されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時、ご家族から直接意見や要望を伺うようしている。その他、アンケート用紙の設置や行政その他外部機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示するなどしている。出された意見や要望に関しては、ミーティング等で話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや運動会など、地元の方々の協力を得ながら積極的に参加している。また、保育園児の遊戯慰問など、ホームを地域の人々が訪れることも多く、活発に交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との関わりの中で、その人らしい人生の継続支援を行う」というホーム独自の地域密着型の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り、ミーティング等で基本理念の唱和を行い、皆で共有化を図ると共に、その際それぞれの仕事を振り返り、理念の実践ができているか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや運動会などに、地元の方々の協力を得ながら積極的に参加している。また、保育園児の遊戯慰問など、ホームを地域の人々が訪れることも多く、活発に交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を振り返りの機会としてとらえ、職員全員で取り組んでいる。自己評価及び外部評価の結果については全員で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの説明や入居者の状況に加え、活動状況、職員研修の実施状況の報告、非常災害時の協力依頼が行われ、参加者からも活発な意見が出されている。また、外部評価における改善事項の取り組み状況のチェックが、参加メンバーの包括支援センター職員によって行われるなど効果的に運営されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他、市が運営するサービス事業所連絡会等で、事業所が抱える課題等の意見交換を行っている。また、市担当者に電話や訪問により相談等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に入居者の状態や暮らしぶりを直接話したり、ホールに掲示した日頃の様子を撮った写真を見ていただくなどしている。その他、毎月の園便りの発行や写真、金銭台帳の写しなどを請求書と共に送付するなど、遠方のご家族に対しても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、ご家族から直接意見や要望を伺うようしている。その他、アンケート用紙の設置や行政その他外部機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示するなどしている。出された意見や要望に関しては、ミーティング等で話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による継続したケアに心がけ、去年は全く職員の離職、異動がない。やむを得ず離職や異動がある場合も、入居者へのダメージを軽減すべく、離職や異動後たまたまホームを訪ねてもらおうなどの対応がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月15日のミーティング時、定期的に勉強会を実施している。また、外部研修にも職員が可能な限り参加できるようにシフトを変更するなど、適宜対応している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「認知症介護を考える研修会」に毎月出席し、同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りやサービスの質向上のための勉強や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人及びご家族にホームを見学してもらい、他の入居者と触れ合うことにより、安心して、納得した上でサービスが開始できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「傾聴・受容・共感」を大切にし、入居者の本心を理解するよう取り組んでいる。日々の生活においては人生の先輩である入居者に職員が色々相談することもあり、共に支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者に声をかけ、じっくりと話を聞く中でそれぞれの思いや意向の把握を行っている。本人からの把握が難しい場合は、ご家族から情報を得て対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で気付いたこと、入居者ご本人やご家族の希望等をふまえて、職員全員で意見交換しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを含め、介護計画の期間(6ヶ月)に応じた見直しを実施すると共に、入居者の状態に変化が生じた場合は随時、入居者及びそのご家族、職員等と話し合い計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態に応じたかかりつけ医の受診支援や、適切な医療処置を受けながらホームでの生活が継続できるように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族の希望にそったかかりつけ医による医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時を含め重度化した場合や終末期のあり方について、入居者やご家族及びかかりつけ医と話し合い、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室へ入室する際の声掛けの徹底をはじめ、入居者の尊厳、羞恥心に配慮したケアが行われている。また、個人情報に関しても記録の管理等適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のホームでの生活の流れはあるが、入居者のその日の体調や気持ちを大切にケアが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味付け、配膳、後片付けなど、それぞれができることをしていただき、入居者と職員と一緒に楽しく語らいながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で入浴を強制することなく、入居者それぞれの希望や習慣に従い入浴の支援を行っている。入浴を拒否される入居者に対しても無理強いすることなく、声掛けのタイミングを変えたり、対応する職員を変えたりするなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	詩吟、俳句、書道、大正琴、地突き歌を日々の生活の中に取り入れ楽しむなど、これまでの生活歴や趣味などを継続して行えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、ドライブに加え、入居者の希望により故郷(自宅)訪問や墓参りなど、ホームの中だけで過ごすことのないよう支援している		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の希望により、自ら居室に鍵をかけることはあるが、日中玄関に鍵をかけることはなく、見守りを中心とした支援が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者も参加する消火・避難訓練を実施している。また、「地元一般協力者自衛消防組織」がつくられ地域の人の協力を得た災害対策が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を介護記録に記入し大まかなカロリー摂取状況の把握を行っている。また、水分摂取に関し不足がちな入居者に対しゼリーなどで確保するなど、支援が行われているものの、記録は行われていない	○	食事の摂取量同様、一日を通じ必要な水分量の確保ができるように記録に残して把握することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デッキスペースからは周囲の山々や田園風景を望むことができ、季節を肌で感じることができる。共有空間は広々としており、一角に掘りごたつのある畳のスペースも配され、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや椅子などの馴染みの家具、冷蔵庫やテレビなどの電化製品の他、位牌などが持ち込まれ、入居者が安心して居心地よく過ごせる居室となるよう工夫している。		